

山北小学校
北小学校
学だより

山北っ子

児童一人一人が輝き、夢実現
H30. 11. 29
第9号
文責 瀧上 佳宏

グローバルな子供たちに

十一月の行事・活動を振り返って



十一月も様々な行事や活動があり、その多くが地域や保護者の皆様のご理解・ご支援・ご協力によって実施できています。感謝の気持ちで振り返ってみたいと思います。

二日(金)は、「ふれあい活動」でした。平日にもかかわらず、児童とほぼ同じ数の地域・保護者の皆様にお越しいただき、「いきなりだんごづくり」や「竹馬」「竹とんぼ」などを楽しみました。

十二日(月)は、地域の公民館・神社などの清掃活動を行う「愛郷活動」でした。多くの班が区長さんをはじめ地域の方に出迎えていただき、ご指導いただきました。

十五日(木)は、三年生の上田さんにお世話にいただき、総合的な学習として、みかん狩りを体験させていただきました。

また、教育課程外ではありますが、十九日(月)には、白木地区の児童十人が山北八幡宮の大祭に参加させていただきました。



お祭りで役目を果たす子供たち

この他にも、町社協や保健センターの方を講師に迎えて四年生の点字手話学習や、四六六年生の歯磨き指導をしていただきました。

とうとう今年、グローバル(Global)という言葉が使われるようになりました。これは、グローバル(Global:地球規模の)とローカル(Local:地域的な)を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する(Think globally, act locally)」という

環境問題等を考える上で、欠かすことのできない視点であると言われています。AIやIoTが隆盛しつつある時代だからこそ、グローバルな発想を持つことができる子供たちを育てるには、実体験や生のコミュニケーションが大事だと思います。そういった意味からも、山北小や山北地域での様々な行事や活動

には大きな意義があります。あとは参加させつつ放し、活動させつつ放しにしないこと。これは学校の責任です。しっかりとマネジメントしていきたいと思っています。

家庭学習の習慣を付けるために

学校から出される宿題については二つの目的があります。それに併せて、ご家庭にお願いをしたいと思います。

一つは「学校での学習を補い、知識や技能を定着させる」こと、例えば、「音読」という宿題は、学校での学習を家庭で繰り返すことにより、すらすらと間違わず、表現豊かに読めるようになります。ですから、家事をしながらでも聞いてあげてください。聞いてあげると力の付きかたがまるで違ってきます。

特に低学年は、漢字や計算の練習でも、見守ってあげると集中力が違います。

もう一つは、「家庭での学習習慣を付ける」ことです。ですから、家庭学習や宿題は、毎日、時間を固定して行うようにしてほしいと思います。習い事などでこれが難しい場合は、曜日によって時間を固定して行うようにしてください。

なお、高学年は中学校での学習を見据えて、自分で課題を見つけて行う自主学習に取り組むことも必要です。ちなみに、私が中学校の担任だった時、「自分の夢を実現する学力を付けるためには、最低でも学年十一時間(中一なら二時間)は家庭学習が必要」と言っていました。六年生はあと四ヶ月後、できそうですか？

修学旅行・見学旅行を通して

十一月は、六年生は修学旅行、一・二年生は見学旅行に出かけました。その様子は、HPに掲載しましたので割愛しますが、引率してみても、これらの旅行的行事は、「礼儀や公共マナーを身に付ける大事な勉強の機会」と感じました。その視点から見ると、六年生の態度は立派でしたし、一・二年生もよい学びができたと思います。十二月に見学旅行がある三、四年生にも期待しています。

※ 十二月十二日(水)の午前中に持久走大会を予定しています。また、事前にもコースで練習します。近隣の皆様にはご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いたします。